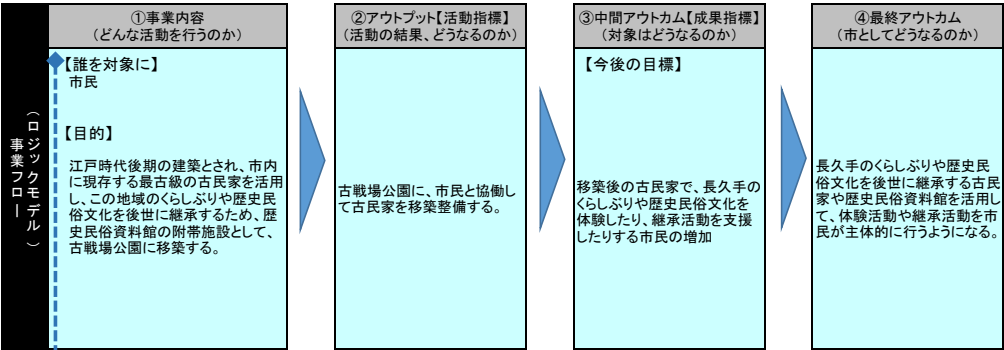


事業番号	23	事業名	文化・文化財事業		担当部課	くらし文化部生涯学習課
基本情報	第6次総合計画・基本目標	5 いつでも どこでも 誰とでも 広がる交流の輪			決算書 ページ	—
	行政改革指針・重点課題	—			会計 区分	一般会計
	法定受託事務の有無	無				予算区分(款－項－目)
	その他(関係計画、要綱等)	有	古戦場公園再整備基本計画			9-4-6 文化財費
	事業開始の背景、経緯等	平成28年度に策定した古戦場公園再整備基本計画にしたがって、この地域のくらしぶりや歴史民俗文化を後世に継承するために、古戦場公園に古民家を含む歴史民俗体験施設を整備する。				
	市民・民間事業者との連携協働の可能性	市民とのみ協働可		(両者と協働不可の場合はその理由)		



コスト 推移	項目	単位	区分	R1年度 (2019)	R2年度 (2020)	R3年度 (2021)	R4年度 (2022)	R5年度 (2023)
	事業費(A)	千円	予算	35,982	33,637	22,771	28,141	53,927
			決算	25,792	21,373	19,427	37,292	-
	人件費(B)	千円	決算	6,326	5,472	5,541	6,428	-
	総コスト(C)=(A+B)	千円	決算	32,118	26,845	24,968	43,720	-
	事業対象の数(D) (R5年度は想定数)	人		59,500	60,000	60,300	60,500	60,800
	対象あたりコスト(C/D)の 過去3年平均値	千円		0	0	0	1	

進捗状況	中間アウトカム【成果指標】の数値設定 (事業の意図を反映する指標)	単位	【現状】 R4年度(2022)年実績	【目標①】 R8年度(2026)年実績	【目標②】 R13年度(2031)年実績
	移築後の古民家で、主体的に活動する市民の延べ人数 (指標の設定根拠)	人	106	206	1,000
	移築後の古民家の活用にあたっては、主体的に考え、行動することができる市民が必要であるため		(数値目標の根拠:調査名、調査年など出典) 現状の市民ワークショップの参加者数を参考に、令和7年度末の古民家の供用開始に向けて、事業に関心を持つ市民が増加することを想定し、目標数値を設定した。		

振 り 返 り	事業開始からの経緯など	平成28年度の古戦場公園再整備基本計画策定以来、古民家の移築に向けて、市民ワークショップでの事業進捗説明や古民家の補修を行ってきた。令和4年度に解体・移築設計業務を行い、令和5年度に古民家の解体を予定し、令和7年度末の供用開始を目指している。施設の運営を担うことができる市民を今後もワークショップ等を通じて増やしていく必要がある。
	令和4年度の成果	(活動のエピソード、コメント、特記事項など) 古民家移築に関する市民ワークショップを4回開催し、大学生、外国人の方を含む延べ106人が参加した。また、長久手中央土地地区画整理組合から本事業への御理解を得て288,717,043円の寄附金を受納し、本事業を進めるにあたり、市の財政的負担を大幅に軽減することができた。
	改善ポイント	(改善が必要なこと、改善の方法など) 市民の中からファシリテーターを育成し、市民主体で意見交換・活動ができるようにしていくことやサイレント・マジョリティの声をいかに集中・反映させるかが重要であると考える。

今 後	今 後 の 方 向 性	<p>(事業の成果を高めるための事業の方向性)</p> <p>古民家移築をはじめとする歴史民俗体験施設整備事業を進めるにあたり、寄附をいただいた長久手中央土地区画整理組合をはじめとする多くの市民から魅力的で素晴らしい施設を整備して欲しいとの意見に応えるため、工事を確実に進捗させる。また、供用開始に向けて、主体的に活動してくれる市民を増やすため、引き続き市民ワークショップを開催して、市の取組の情報発信に努める。</p>
--------	----------------------------	--

事業を構成する 事務事業①	事務事業①	歴史民俗体験施設整備事業						
	活動指標 (事務事業の具体的な活動の指標)	単位	区分	R4年度 (2022)	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)
	(1) 市民参加の延べ人数	人	見込	120	200	300	400	500
			実績	106				
	(2) 【アクションプラン】 整備する古民家の棟数	棟	見込	-	-	-	1	-
			実績	-				
	(3)		見込					
			実績					
	＜備考：活動の概要（R4年度(2022)）＞ ・市民参加の延べ人数は、市民ワークショップ参加延べ人数とする。令和4年度は、古戦場公園再整備事業に関する市民ワークショップを4回開催し、大学生、外国人の方を含む延べ106人の市民が参加した。						今後の方向性	改善・見直し
							コスト投入	拡充

事業を構成する事務事業②	事務事業②							
	活動指標 (事務事業の具体的な活動の指標)	単位	区分	R4年度 (2022)	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)
	(1) 運営に携わる市民の人数	人	見込					
			実績					
	(2) 【アクションプラン(総合計画)の 指定の指標】		見込					
			実績					
	(3)		見込					
			実績					
	＜備考：活動の概要(R4年度(2022))＞							
							今後の方向性	
コスト投入								

[illegible]